

令和2年度 学校評価（あきた型）シート
「秋田西高等学校」

①	評価領域	進路指導部
---	------	-------

目標の設定（Plan）

②	重点目標	生徒一人ひとりの進路実現の達成
③	現 状	生徒一人ひとりの進路意識は高いとは言えないが、各学年部とも生徒の多様な進路実現に向けて熱心な取り組みが見られる。
④	具体的な目標	基礎学力の定着、ならびに大学入学共通テストに対応できる学力の育成
⑤	目標達成のための方策	授業、朝学習、補習を通しての学習習慣の定着と学力向上。 進路行事を通して、保護者ならびに生徒の進路意識の啓発。

実践（Do）

⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めのコロナウイルス感染症による休校においては、各教科とも「スタディサプリ」を用いて授業に代替する取り組みを実践した。 ・コロナ禍の中、保護者向け進路講演会や看護希望者対象の講演会はリモートでの実施を行った。 ・総合型選抜ならびに学校推薦型選抜のリモート面接においては学校として責任をもって対応した。
⑦	達成状況	
		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において国公立大志望者が例年より少ない中、一人一人の進路実現に向けて柔軟な対応ができています。

自己評価（Check）

評価基準	<p>A：具体的な活動が示され目標を達成できた。</p> <p>B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。</p>
------	--

⑧	自己評価	評 価	根 拠
		A	教職員全体の協力を得て、一人一人の進路実現がなされている。

⑨	学校関係者評価と意見	評 価	意 見
		A	<p>コロナウイルス感染症の中、「スタディサプリ」を用いての授業に代替する取り組みや、リモートでの講演会、面接など柔軟な指導がなされている。</p> <p>進路指導においては3年間を見据えたキャリア教育にも力を入れて欲しい。</p>

改善した実践（Action）

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	3年間を見据えたキャリア教育の充実のため、インターンシップやボランティア、探究活動等の事後指導に力を入れると共に、ICT機器を用いての授業改善と学力向上を図る。
---	-----------------------	--